

Our Life 118号

- *
内
容
*
- いまこそ，“真の福祉文化の創造”を目指して……平成30年度は、「子どもと福祉文化」……P.1
 - 「福祉文化と子どもを育む地域づくりを考える」をテーマに第1回公開型研修会開催……P.2
 - 3年目の「港地域支え合い講座」への支援始動……P.3
 - 事務局日誌拝見／福祉文化実践活動をご一緒にしませんか 編集後記……P.4

いまこそ，“真の福祉文化の創造”を目指して 静岡福祉文化を考える会 平成30年度の活動テーマは 子どもたちを地域ぐるみで育む福祉コミュニティの構築に向けて

本会は、平成8年9月に結成以来、23年目の活動に入る。これまでの23年間を振り返ってみると、「公開型研修会」は、延べ90回開催、「福祉文化研究セミナー」は、静岡県において「第13回日本福祉文化学会静岡大会」開催が実現後、福祉文化の創造の火を消さないために、立ち上げ、何とか細々とではあるが「第16回福祉研究セミナー」の開催につながってきた。また、本会の大きな活動である「調査研究活動」は、結成以来、その年度の社会課題をテーマに取り組み続け現在に至っている。改めて、平成30年度の活動は「福祉を文化にする、静岡発 福祉文化の創造」（豊かに暮らせる身近な地域づくりを日々努力する）とは何かを検証する活動の原点に戻り、本会の活動基調である「専門性と市民性を融合した活動」「広く地域課題を共有した地域総合型学習活動」「新たな地域課題解決に向けた活動」をもとに、情報の共有、広報啓発、人的交流、プロセスを重視し、人々が支え合って暮らし合う生活圏域における「地域課題」を掘り起こし、課題提起をする取り組みとして、「生活会議」と置き換え、実践活動に取り組む。本会は、10年前の平成17年度・18年度の2年間にわたり、子どもたちを取り巻く地域環境について理論と実践を融合し議論をしてきた。今、地域社会では、にわたり、「子どもを取り巻く地域課題」をテーマに取り組んできたこの課題を10年以上たった今、家庭・家族機能のあり方が問われている、子どもたちを取り巻く身近な生活圏域の地域環境について、いかにして、コミュニティ組織の中で、大人社会は子どもたちと向き合い、地域ぐるみで子どもたちを育む地域づくりが出来るか、「協働」をもとに身近な生活圏域の問題として取り組むこととする。

平成30年度静岡福祉文化を考える会 活動着眼項目

- (1) 引き続き、若者の参加を呼びかけていく。特に、発展的活動として3年目に入る「若者発「居場所」あり方研究会」（常葉大学同好会）とは、日常的な連携を維持し、これまで本会が課題提起をしてきた「若者の地域参加」「居場所」をより具体的に実践し、「子ども支援」を通じて「居場所」に関する研究を深めていくための連携を図る。
- (2) 市民主体のコミュニティ構築の必要性を、各活動項目に随所に強調し、地域における住民主体の「地域総合型学習」の取り組みを深める。
- (3) 福祉コミュニティ再構築に向けた県民の意識と実態把握事業 ―地域ぐるみで子どもたちを育む環境づくりへの提言― に取り組む。これまでの実践活動から、福祉コミュニティの再構築のキーワードを「子どもを育む地域づくり」とし「家庭・家族機能」を再認識し「真の子どもの居場所」を問う。
- (4) 自主的な「共創社会研究会」を設置し、子どもの取り巻く環境について広く意見を求める。
- (5) 「日本福祉文化学会」「あしたの日本を創る協会」「ふじのくに未来財団」「静岡市ボランティア連絡協議会」等の関係団体との連携をもとに、福祉文化実践活動を継承していく。

●身近な生活圏域で福祉課題解決に向けた「生活会議」を創る
 子どもたちを地域ぐるみで育む福祉コミュニティの構築に向けて
 「福祉文化と子どもを育む地域づくりを考える」を研修テーマに
 平成30年度 第1回静岡福祉文化を考える会 公開型研修会開催

平成27年度から3年間、「若者の地域参加」「ご近所福祉」「地域ぐるみの居場所とはなにか」を地域社会に呼び掛け、それぞれの立場から意見を出し合ってきた。そのプロセスを重視し、地域の子どもの地域でいかに育てることが出来るか安心して暮らせる「子どもの居場所」を議論する目的で、平成30年度の第1回公開型研修会は、「子どもを取り巻く地域環境の現状」をテーマに、5月27日（日）に、静岡市清水区追分「寄ってっ亭」に、地区社協役員、民生委員児童委員、社協職員、介護事業所関係者、NPO法人関係者、一般市民、居場所実践者、若者（大学生）、本会会員等17名が参加して開催した。

プログラムの着眼項目は、(1)「静岡発 福祉文化の創造」22年間の確かな手応えを学習につなげる場、(2)世代を超えた身近な生活圏域の課題解決に向けた議論（「生活会議」）をする場、(3)今、あらためて、「居場所ってなに その意識と実態調査」から居場所のこれからを語る場、(4)「子どもたちを取り巻く地域環境（ご近所福祉）」を語る場、(5)「子どもたちにとって居場所とは何か」を語り合う場をもとに展開した。

地域の子どもの地域で育む社会環境こそ今、地域社会が求めなければならない課題である。

本会の平成30年度の活動テーマ「子どもたちを地域で育む福祉コミュニティの構築に向けて」をもとに、第1回公開型研修会では、『地域が抱えている子どもの居場所とはーこれからの地域づくりをめざすー』を大きな研修テーマとして、次のプログラムに基づいて、展開した。今回のワークショップでは、「子どもを取り巻く地域環境の現状について」3つのグループに別れ、「KJ法」により、「地域環境の現状」を市民の立場で議論した。その主な内容を4つのカテゴリーでその概要を紹介すると…

1. 人的環境

(1) 良好な環境要因

- 1 学校の中で、見守り中に問題を抱える子どもを発見した時には、学校へ連絡する。先生と面接する。
- 2 地域全体で、町内で子ども見守り隊を発足（H.28年10月）。朝の登校時と見守るボランティア募集。60名集まる。
- 3 地域全体で、月に1度、主任児童委員と民生委員は学校に訪問、意見交換を行っている。

(2) 課題解決すべき環境要因

- 1 家庭・家族の中で、親の都合の子どもの動き。
- 2 ご近所の中で、子どもが行ける駄菓子屋が1軒。
- 3 集団で遊ぶことが少ない。
- 4 発達障害児を理解していない。
- 5 近所の人はその子のプライバシーを知っている。うわさ話ではなく、支えるための共有を。

プ ロ グ ラ ム

13:00	受付
13:30	開会
13:50	アイスブレイク（参加者自己紹介）
14:20	報告①「22年間の静岡福祉文化を考える会のプロセスを振り返るー子どもと福祉文化ー」
14:50	報告②「居場所 その意識と実態調査結果」をさらに、子どもを育む地域社会につなげる
15:20	休憩
15:30	ワークショップ 「子どもを取り巻く地域環境を探る」
16:10	閉会



2. 物的環境

(1) 良好な環境要因

- 1 世代間で公園を利用している。
- 2 授業終了後、小学校にある学童保育で過ごすことで守る。
- 3 公会堂・集会所を有効活用している。

(2) 課題解決すべき環境要因

- 1 公会堂の使い勝手が悪い（管理的）
- 2 路線バスが無くなる計画があるが、通学に困る為、デマンドバスの運行検討が必要となる。
- 3 核家族、母子・父子家庭
- 4 公園があっても子どもが遊んでいない。



3. 空間的環境

(1) 良好な環境要因

- 1 子どもの居場所は地域そのもの（地域のどこでもが）

(2) 課題解決すべき環境要因

- 1 地域の中に語れる・話せる居場所・時が必要。
- 2 子ども会がない。
- 3 発達障害の扱い（別クラスで分けてしまう弊害）
- 4 遊び場が少ない。



4. 自然的環境

(1) 良好な環境要因

- 1 地域には、山、川、公園等豊かな自然環境に囲まれている。

(2) 課題解決すべき環境要因

- 1 草花つみができなくなった。（自然がない）
- 2 近所に集まる場所がない。

*** 第2回公開型研修会のご案内 ***

第2回公開型研修会では、第1回公開型研修会のワークショップにおいて、浮き彫りになった「子どもを取り巻く社会環境」をいかに改善していくか、子どもを中心に議論を展開いたします。

- 日 時：8月25日（土）13:30
- 会 場：静岡市清水区追分 3-5-17「寄ってっ亭」（TEL: 054-367-2878）
- 研修テーマ：ささえあう地域ぐるみの“子どもの居場所”を考える
 - ① 基調報告「子どもを取り巻く社会環境の現状」
 - ② 実践事例「実践で子どもたちを育む活動に学ぶ」
 - ③ ワークショップ「子どもを取り巻く環境改善・解決にトライ」

* 本会支援協力 3年目の「港地域支え合い講座」への支援始動 *

本会が側面的協力をしている、焼津市の「港地域づくり推進会」（2つの自治会・約5,000世帯で組織化）が主催する、「港地域ささえあい講座」は、今年度で3年目を迎える。4月18日に準備委員会を開き（写真上）、6月30日に、いよいよ、実行委員会を立ち上げることとなった。9月～12月までワークショップを中心に、地域福祉や障害者、児童、高齢者等を理論と実践により学び、4回の講座を開講する。今年度、新たに、管内にある13の介護事業所の関係者の意見交換会（写真下）も実現し、実行委員会に加わっていただくこととなった。講座の詳細は次号で紹介する。

本会では、この講座に関して、実行委員としての参画をはじめ、講座通信、テキスト、講座報告書の作成にあたる。



事務局日誌拝見 (3/25~6/12)

- 03/25 関係機関・団体等に助成事業終了に伴う礼状送付
03/31 会計処理連絡調整
04/10 「報告書」(2種類), Our Life117号, 会費納入, 第1回公開型研修会案内(05/27)等メール便で発送(会員22名, 調査協力者25名, 協力社協15社協, 資料希望者8名, 調査協力学生6名, 03/04研修会参加者16名, マスコミ4名 計95名)
04/10 会計に関する連絡調整
04/11 助成事業情報収集(ふじのくに未来財団, 大石様)
04/11 発送した「報告書」のお礼の電話続く
04/12 委員会関連資料作成作業(～4/20)
04/13 関係機関・団体等との連絡調整
04/21 第191回委員会開催(寄ってっ亭)
04/22 (～05/15) 05/27第1回公開型研修会のに向けた資料作成作業 05/19印刷完了
・資材, 看板等準備作業検討
04/23～5/22 第1回公開型研修会関連準備完了 助成事業情報収集作業
04/26 第1回公開型研修会に関するマスコミ対応(第1回目)
04/27 あしたの日本を創る協会より, 「平成30年度助成事業要項」届く
04/30 当面の活動展開検討・連絡調整/第1回公開型研修会当日レシメ作成作業
05/08 あしたの日本を創る協会へ「平成30年度助成事業申請書」提出
05/10 ふじのくに未来財団に平成30年度助成申請について相談に出向く
05/10 県社協助成事業に関する相談に出向く
05/21 第1回公開型研修会に関する「看板」「表示」「資材」準備作業完了, マスコミ対応
05/08 あしたの日本を創る協会より「平成30年度助成決定」の文書届く
05/27 第192回委員会開催/第1回公開型研修会開催(参加者17名)
05/28 「Our Life 118号」企画・編集作業開始 ふじのくに未来財団より資料(写真)提供依頼
05/29 第1回公開型研修会ワークショップ成果物考察作業及び事後処理(関係方面への礼状送付)
06/04 ふじのくに未来財団に出向き資料(写真)提供
06/05 第2回公開型研修会(8/25)企画検討
06/06 平成30年度助成申請書類作成作業
06/09 「Our Life 118号」編集作業完了
06/11 「Our Life 118号」印刷作業
06/12 第1回公開型研修会欠席会員に関連資料及び「Our Life 118号」発送

●福祉文化実践活動をご一緒にしませんか??

「静岡福祉文化を考える会」は, 阪神淡路大震災(1995)翌年度の平成8年9月1日に発足し, 平成29年度に22年の節目を迎えました。平成29年度は新たな節目に向かい, 「福祉文化の創造」に取り組んでまいります。

本会の活動基調は, 「専門性と市民性の融合」「公開型地域総合学習の企画と実践」「課題解決に向けたプロセス重視」のもと, さまざまな分野で活動している会員が, 身近に感じている地域社会全般の課題解決に向けて市民の視点で活動をしています。

◇ 会費: 社会人3,000円 大学生以下1,000円

◇ 問い合わせ: 420-0841 静岡市葵区上足洗3-7-15-5
静岡福祉文化を考える会事務局 Tel & Fax: 054-246-1486

編集後記

いよいよ, 23年目の「静岡発 福祉文化の創造」の活動が始まった。昨年度は, 思いがけない「ふじのくに未来財団助成事業」「静岡トヨタ自動車(株)ハイブリッド基金助成事業」「静岡県社会福祉協議会ふれあい基金助成事業」等の支援をいただき, 「ささえあう地域ぐるみの“居場所”づくりへの25の提言」をまとめ, 県内各方面に課題提起をすることが出来た。本会の活動基調である「地域課題の掘り出し」「市民主体の地域づくり」になんとか取り組むことが出来た。今年度は, 危惧されている「子ども」にスポットを当てる。